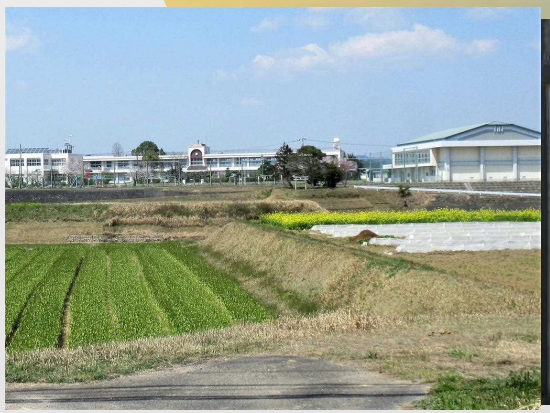
テーマ「領家遺跡」

ジャンル：歴史的史跡

十六世紀の中頃、領家と呼ばれる丘陵地に南北80m、東西120mの堀をめぐらした城館がありました。当時は大内氏から毛利氏に代わる時代でした。この地に人々の生活を守る建物が確かにあったことがわかります。

1551年　大内義隆、大寧寺で討たれ大内氏滅亡。
1555年　陶晴賢、厳島の戦いに敗れる。
1557年　大内義長、功山寺で自害。
1569年　大内輝弘の乱で白松に乱入。

「領家」と言う地名から、領主に当たる人の屋敷があったのでしょうが、誰の家来の誰なのかは分かっていません。大内氏から毛利氏に変わる時代、この地にも戦国の争いの場面が記録されているのでした。



遺跡から学校を望みます

説明看板が立てれています

4月の様子です　芝桜が満開でした。